

TYPE OF INDUSTRY



「グローバルで事業内容と社名が合致する必要を感じていた」。マツシマメジャテック社長の松島徹は、2014年に社名を旧松島機械研究所から変更した経緯を明かす。計測を意味する「メジャー」と技術の「テクノロジ」を組み合わせた造語は海外で認知されやすい。製鉄所の高炉用レベル計で国内シェア100%を誇る同社は現在、海外市場に乗り出している。

### ドイツ製に挑戦状

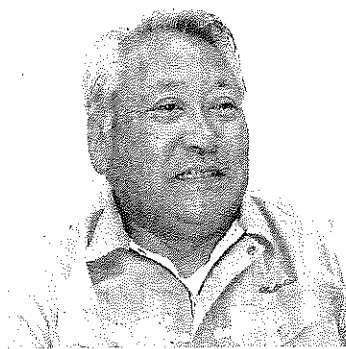
創業は1946年。炭坑が多い九州で手がけた自動ボタ抜き装置が人気となり、全国の炭坑でシェア70%を記録した。その後は八幡製鉄（現新日鉄住金）の原料貯蔵量を計測するサウンジ

ング式レベル計を開発、この分野の大手となる。松島は長い間、マイクロ波を使ってプラント内部を計測するマイクロ波レベル計の国産化を目指していた。この市場ではドイツのエンドレスハウザー、ベガ、シーメンスの3社が君臨しており、松島機械時代は同社もベガの製品を販売

## 成長企業チカラの源泉

# マツシマメジャテック

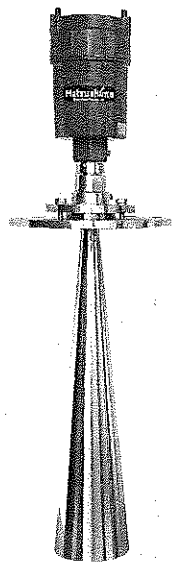
## 海外市場 顧客目線を徹底



社長 松島 徹氏

「国産化して3社の牙城を崩す」ことを目標に置いた。マイクロ波を使った製品開発は80年代半ばから始まる。松島が社長就任した96年当時、海外製品は大きくも改良を重ねついに12年、国産初の周波数26GHzのバルスレィダー方式マイクロ波レベル計を開発。市場を独占するメジャーマ

していった。だが顧客ニーズに対応できない不満から「国産化して3社の牙城を崩す」ことを目標に置いた。マイクロ波を使った製品開発は80年代半ばから始まる。松島が社長就任した96年当時、海外製品は大きくも改良を重ねついに12年、国産初の周波数26GHzのバルスレィダー方式マイクロ波レベル計を開発。市場を独占するメジャーマ



# 世界のメジャー入り目指す

モノづくり基盤・成長企業

顧客ニーズに目配りした製品開発でシェアを伸ばす（マイクロ波レベル計）

製品は顧客や風土で使い方が異なる。独製品は高性能だがニーズに目配りできていない。当社は顧客目線を徹底した」と自信をみせる。

創業70周年を迎えた本年度の目標に「ファースト・コール・カンパニー」を掲げた。困った時、最初に連絡してもらえらるブランド力を身に付ける。世界のメジャー入りが新たな目標だ。（敬称略、北九州支局長・大神浩二）

### 【企業プロフィール】

▽社長 松島徹氏▽所在地 北九州市八幡西区則松東1の8の18▽設立 46年（昭21）▽従業員 125人▽売上高 16億5000万円（16年3月期）

（火曜日に掲載）